

Young Officials' Camp 2009 (ヤング・オフィシャル・キャンプ 2009)参加レポート

片山 雄一郎

【概要】

日程:2009年8月14日(金)~8月16日(日)

場所:埼玉県上尾市・埼玉県立スポーツ研修センター、上尾市運動公園体育館

講師:

橋本 信雄氏、ピーターズデック(スロバキア)氏、吉田 利治氏、
関口 知之氏、須黒 祥子氏、岩田 千奈美氏、野口 浩正氏、山崎 仁士氏、加藤 秀典氏、
津田 博夫氏、佐藤 誠氏、吉田 正治氏、安西 郷史氏、山崎 人志氏、吉田 憲生氏、
高橋 伸次氏、平原 勇次氏、中江 洋美氏、佐々木 潤氏、平野 彰夫氏、野村 考一氏

総務:

小林 剛樹氏、栗原 俊之氏、高橋 哲雄氏

広報:

貫井 義昭氏、和泉 淳一氏

視察:

西島 詠次氏

受講者:

全国の若手審判員50名

【YOC2009 で感じたこと】

第一に、全国からの若い同世代の審判員と審判の実践を含め2泊3日という共同生活をし、大変よい刺激を受けることになったと感じる。それぞれの審判に対するモチベーション、審判に対する姿勢や普段何を考え審判をしているのか等、このYOCならではの会話・情報交換ができ大きな収穫となった。3日間という短い間ではあったが、高校の部活の合宿のような密度の濃い、有意義な審判生活をおくることができ、自信のモチベーションの上昇やスキルアップにつながったキャンプであったと思う。

このキャンプの中で普段の講習会とは違うユニークな点と感じたものは、様々な講義が充実していたところである。

Petr Sudek氏(FIBA講師)による体育館での座学では、主にメカニクス(審判の動き)やジェスチャーについて指導いただいた。英語での講義であったが、佐々木潤氏の通訳のもと、大変興味深い内容であった。基本的なメカニクスをしっかりと覚え、それに忠実に動くこと。また、選手だけではなくコーチやベンチ、そして観客にも伝わるような分かりやすい(マニュアルに則った)ジェスチャーを心掛けること。「試合が終わって、選手・コーチや観客から『今の審判誰だったっけ?』と思われるような審判をするのが理想」という言葉が印象的であった。

また、平野彰夫氏の「ルールについて」の講義では、実際の試合(主にNBA)の映像を用い、各

ファウルの現象に対してルールブックに則ってファウルなのか否か、そしてファウルだとしたらその理由を細かく分析した。その結果、ひとつの現象を様々なプレイで連続して分析することで、その現象に対する基準がより明確になっていくのが分かった。今回分析した現象は、「ブロッキング」、「オフエンスチャージング」、「ブロックショット」、そして「スクリーンプレイ」の4つだったが、どれも大変興味深い内容であった。

最後に、橋本信雄氏の講評の中で、「今まで手を抜いて行った審判は無い」という言葉に大変感銘を受けた。普段何気なく審判をしている自分自身の姿勢を見直す良い機会だと感じ、さらなるモチベーションの上昇へとつながるようにしたいと思う。重複ではあるが、今回このキャンプに参加し3日間普段と違った形の講習会を通して、審判技術のスキルアップだけではなく、審判とは何なのかのような審判を目指すのか等、様々なことを学んだ。ここで学んだことを自分なりに解釈し噛み砕き、今後の審判へと活かしてだけでなく、京都の審判員へも伝えさらなる審判活動の活性化へと繋げていきたいと思う。

最後になりましたが、今回 YOC を通して様々な興味深いアドバイスや講義をしていただいた講師の皆様、および3日間の私達の生活面でお世話になりました総務の皆様にも心より感謝申し上げます。また、このような講習会に参加させていただきましたことを、京都の審判員の皆様に厚くお礼申し上げます。

【自身の審判に対する講評】

8月15日(土) 11:45～ 河口北一都足立 相手審判:成田 悠仁氏(青森)
講師:安西 郷史氏

- ・ オフボールが見れていないせいで、何が起こるか心配。怖い印象がある。
- ・ 確認がとれていないものは絶対に吹かない。

8月16日(日) 9:30～ 小山西一都四商 相手審判:佐藤 敬祐(熊本)
講師:高橋 伸次氏

- ・ リードのときに右への動きをもっと積極的に。
- ・ 動きに強弱をつけ、見たいものを見に行く姿勢を。

以上